

# 関西大学幼稚園

## 2025 年度学校評価報告書



2026 年 3 月

# 目次

## 2025年度 関西大学幼稚園 学校評価（自己点検・評価）分析

1	本園の概要	1
2	今年度の教育活動状況	1
3	評価の実施にあたって	1
4	評価の分析	8
5	学校関係者評価委員会からの評価結果	24
6	「学校評価（自己点検・評価）報告書」に対する園長の意見書	26
7	アンケート結果	27

## 1 本園の概要

関西大学幼稚園は、教育基本法を十分に尊重し、すべての園児が各自の人間性や能力を全面的に開花させていくことを目的として1951年に開設され、創立74年目を迎えている。

本園は、「自主性の陶冶」「協同性の涵養」「生きる力の育成」の3本の柱を教育の基本方針とし、様々な環境や境遇に育った子どもたちが、幼稚園の新しい環境と集団生活に適応できるように教育活動を実践している。「いきいきと自己表現ができ、積極的にいろいろなことに取り組むことのできる子どもにすること」「みんなで協同して仕事をしたり、遊んだりすることのできる子どもにすること」「困難に出会った時、前向きに解決していける豊かな感性と生活の知恵をもつ子どもにすること」を子どもの育ちのなかで見逃すことなく働きかけながら、子どもが子どもらしい感性を発揮し、心豊かに人間らしく育つことを、時代を越えて守っていかなければならないと考えている。

また、本園は自然環境に恵まれ、園舎前面に運動場があり、園庭には楠、桜、いちよう、センダン、くぬぎ、かえで、つつじ、つばき、きんもくせいのほか、裏山には松、かし等の樹木に囲まれている。また、ざくろ、みかん、柿、ジューンベリー、ブルーベリー等の実がなる木や草花の存在は、子どもたちに四季折々の自然を身近に感じさせる楽しみとなっており、情操教育の一助となっている。

このような環境の中で、教育学や心理学及びその他の諸科学の進歩に即しながら、子どもたちの感覚を豊かにすることに重点を置きつつ、認識、情操、能力、健全な心と体の発達を図るための保育を開設以来積み重ねている。

一方、本園を運営する学校法人関西大学は、「Kandai Vision 150」に基づき、その実現のために、中期行動計画を策定し実施している。本園においても、この枠組みの中で基本方針と中期行動計画の連関を意識しながら教育活動を実践している。

## 2 今年度の教育活動状況

併設校の利点を生かした大学との連携に関しては、関西大学国際部と連携し、保育時間中に外国人留学生を招き、園児と交流を深める取り組みを年中・年長組は5月、年少組は11月より実施した。また、英語を話す外国人留学生との交流は、年中・年長組は5月から、年少組は10月より週一回定期的実施し、英語への興味関心を持てる時間となった。関西大学文化会の学生による演奏を鑑賞する「楽しいつどい」は、11月にグリークラブ、2月に邦楽部、交響楽団に来ていただき実施することができた。関西大学大学院心理学研究科の「心理アセスメント演習2」の一環として本園で実施する短期実習も実施することができた。

## 3 評価の実施にあたって

本園の自己点検・評価（学校評価）は、今年度より本園の豊かな自然環境に焦点を当て実施した。

保護者に本園の自然環境と保育で気づかせたいことを表にまとめて配布し、理解を深めていただけるようにした。就労する保護者が増え、クラス懇談会に参加できない方が増えている現状から、これまで行っていたクラス懇談会後のアンケート実施をやめ、アンケートは全保護者に配布し、回収するようにした。なお、回収率は82.7%であった。

本園の学校評価活動の特徴として、2010年度から保護者にも協力を仰ぎ、保護者と教員との間で本園の教育についての意識が共有できているかを検証している。

2025年度の本園における主な自己点検・評価活動は以下の通りである。

日付	議題	内容
5月13日(火)	今年度の学校評価について	
8月25日(月)	今年度の保護者・教員アンケートについて	・アンケート項目の作成
9月24日(水) 9月25日(木) 9月26日(金)	年少組クラス懇談会にてアンケート実施	・今年度の学校評価アンケート集計
9月30日(火) 10月1日(水)	年中組クラス懇談会にてアンケート実施	・今年度の学校評価アンケート集計
10月7日(火) 10月9日(木)	年長組クラス懇談会にてアンケート実施	・今年度の学校評価アンケート集計
12月15日(月)	保護者アンケート配布	
12月19日(金)	保護者アンケート回収	・今年度の学校評価アンケート集計
2月26日(木)	教員用アンケート実施・集計	
3月13日(金)	学校関係者評価委員会開催	

\*アンケートに記載のあった悩みや質問については個別に対応している。

今年度の学校評価を行うにあたり、私たち教員がこの豊かな自然環境への理解を深めることや確かめることが必要だと考え、毎回の職員会議で自然の変化について発見したこと等を出し合った。そうすることで気づいていなかったこと、わかっていなかったことを知る機会となり、理解を深めたり、広げることができた。自然は刻々と変化していくので、変化や発見したことを共有することで時期を逃さず子どもたちへ働きかけることができた。職員会議で共有した内容は以下の表の通りである。

自然の変化、発見

2025年度

4月3日	・ガザニア・柿の木の新芽がまだ柔らかい。
------	----------------------

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・藤のさやから花が見られてきた。</li> <li>・鶯が泣いている。</li> <li>・ジューンベリーの白い花が咲いている。</li> <li>・自然のつぼみ・花・実の一年の移り変わりから計画を立てていく。</li> <li>・姫りんごの花が見ごろ。</li> <li>・チューリップ・藤が咲き始める。</li> </ul>
4月30日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・梅の実が緑でなり始めている。</li> <li>・裏山の夏みかんのつぼみが沢山ついている。来週くらいに咲くかもしれない。</li> <li>・柿の新芽まだ柔らかい。つぼみはまだできていない。</li> <li>・柿の木の横のつばきの花・つつじが見ごろ。</li> <li>・藤が今年は早く散った。</li> </ul>
5月13日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5月15日チューリップの球根抜き。</li> <li>・お芋の苗植え6月上旬。</li> <li>・柿の花が咲いている。花が少ないので実りが少ないと予想。</li> <li>・みかんの花、センダンの花がとてもきれいに咲いている（見ごろ）。</li> <li>・裏山の夏みかんの花も見ごろ、香りも子どもたちに気づかせたい、葉っぱにモンシロチョウの卵が2つある。 (年長山に行き子どもが見つけたらお部屋で育てるのはどうか。)</li> </ul>
5月20日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジューンベリーが赤くなってきた。今週食べられる。</li> <li>・ブルーベリーが大きくなってきた。 (今年はカモ小屋のブルーベリーの方が育ちが良い。小鳥小屋の近くのブルーベリーが例年早かったが。)</li> <li>・あじさい横の雑草の所にてんとう虫の幼虫が葉についている。(黒い)</li> <li>・年中のお部屋から見えるプランターに植えたひまわりの芽が出た。 (土を押し上げて出ている様子を子どもたちと見た。)</li> <li>・年少児が裏山で筈を見つける。</li> <li>・玄関前の梅の木が枯れてきてしまい枝が落ちてきそうなので応急処置をして落ちないようにしている。</li> <li>・会議後にジューンベリーのネットをかける。</li> <li>・梅の実がついている。</li> <li>・お芋畑を今週耕す。</li> <li>・渋柿の花が咲いている</li> </ul>
5月27日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・つばめが見られた。 (つばめは日本が冬の間は暖かい国にいるが今の時期は海を渡って赤ちゃんを育てに日本に来る渡り鳥)</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミミズがいた。(ミミズは土を耕す)</li> <li>・鐘の横の木は桃ではなく、梅の木。(梅の木と桃の木は葉の形が違う。)</li> <li>・カモ小屋近くのあじさいが咲き始めそう。(葉が柔らかい。)</li> <li>・大学のあじさいが見ごろ。</li> <li>・トマトの緑の小さい実が付き始めた。黄色い花も咲く。</li> <li>・アゲハチョウの卵を5月13日の週に部屋に迎える。26日にいもむしになり名前を付ける。 (幼虫に与えるみかんの葉は裏山から採る。取りすぎてしまうと次年度実がつかなくなる。)</li> <li>・裏山の筍が枯れ始めている。</li> </ul>
6月3日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かたつむりがあじさいの木にいる。 (2歳児皆で見る。保護者も初めてみたという声が多かった。)</li> <li>・裏山の筍が枯れる。</li> <li>・梅の実が落ちて用務員さんが拾って台所前にお皿を置いて子どもたちに見える様にして下さっている。</li> <li>・ひまわりの種をざくろの木前のプランターに植える。</li> <li>・ブルーベリー(カモ小屋)色付始める。 (小鳥小屋近くのブルーベリーはまだ硬い実なのでもう少し日にあてるためネットはまだ掛けない。)</li> <li>・6月4日さつまいもの苗を植える。</li> <li>・ゆき組の幼虫のメロンちゃんがさなぎになる。ほし組の子どもたちが見に行く。</li> <li>・てんとう虫の幼虫(黒)があじさいの近くにいる。 (年長の子どもたちが貝殻くんと名前を付ける。)</li> </ul>
6月10日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・裏山の遊具のうんてい近くに竹が出てきている。</li> <li>・園のあじさいが見ごろになってきている。</li> <li>・年中児、大学にあじさいを見に散歩に行く。(白・水色・紫のあじさい)</li> <li>・あじさいのとなりのバラのとげに注意。</li> <li>・南天に白い花が咲く。 (白い花から赤い実になる変化を楽しみにする。)</li> <li>・4日にふうせんかずらの種を蒔く。1週間経ってもまだ芽が出ていないため水やりを毎日する。</li> <li>・トマトに興味をもつ2歳児の姿がある。雨が続けているので早めに収穫する。</li> <li>・さつまいもの根が張り始めた。</li> <li>・ゆき組のさなぎになっていたメロンちゃんが蝶になった。(さなぎから</li> </ul>

	<p>出てくる様子を子どもたちと見る事ができた。)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2歳児の子どもたちが散歩で虫食いの桜の葉に興味を持って見る。</li> <li>・ 6月4日お芋の苗を植えた。</li> </ul>
6月17日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ツツジのつぼみが膨らんできた。</li> <li>・ みかんの木にかたつむり。</li> <li>・ ひまわりが育ってきている。</li> <li>・ ふうせんかずらの芽がでてきた。</li> <li>・ 裏山のみかんの葉に蝶の卵がたくさん付いている。</li> <li>・ 先週蝶になったメロンちゃんを子どもと放したかったが、雨が降り放せなかったため、雨が止んだ保育後に放した。</li> <li>・ カモ小屋の近くのブルーベリー食べごろになったので、20日に年長からいただく。</li> <li>・ トマトの実が大きくなってきたがまだ緑色。</li> </ul>
6月24日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ほし組のトマトがカラスに取られてしまったため、ネットをかけた。</li> <li>・ トマト赤くなってきた。</li> <li>・ 20日に蝶が羽化したため、保育中に子どもと外へ放した。</li> <li>・ カブトムシを頂いて年長組で飼うことになった。</li> <li>・ 通園中の子どもの声「雨が降らないとお米が育たないね。」</li> <li>・ 雨でプールが中止になった時に子どもに“お花や野菜は大きくなる”話をした。</li> <li>・ 2歳児で園庭の木々やブルーベリーなどを見に行く。</li> </ul>
7月1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ セミが鳴き始める。</li> <li>・ ふうせんかずらのツルが伸び始める。 (うさぎ組の子どもたちは育ちをみている。)</li> <li>・ 花壇の水やりを順番ですていく。</li> <li>・ 年長のトマトを年中・年少でもいただく。 (年長「トマトができました」、年中・年少「甘酸っぱいよ」「川はかたそう」「美味しい」との声楽しそうに食べていた。)</li> <li>・ 園庭水道の後ろにつばきの実ができています。</li> <li>・ カマキリの赤ちゃんが見られる。 (うさぎの部屋にいた。スロープの天井にいた。)</li> <li>・ カナヘビを子どもが見つかる。</li> <li>・ 渋柿の実が落ちている。(摘花) 2歳児の部屋への通道、保護者や2歳児の子どもたちが拾ってくる。 (花が落ちた時、落ちている実を部屋に置き、皆で見た2歳児。)</li> </ul>
7月8日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ブルーベリー3回目を今週全学年いただく。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・藤の花が何本か咲いている。(去年は無かったこと。)</li> <li>・ふうせんかずらのツルが伸びている。</li> <li>・お芋畑が水不足でタイマーを変える。</li> <li>・お芋の葉が所々黄色くなる。</li> <li>・日射しが強い。</li> <li>・雨が少なく梅雨がすぐに終わってしまった。</li> <li>・畑に雑草が出てきている。(年長児雑草抜きをするのはどうか)</li> <li>・用務員さんが朝に水やりをしてくださっている。</li> <li>・雑草抜きをしてくださっている。</li> <li>・柿の木にネットをかける。</li> </ul>
7月15日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かたつむりがクスノキにのぼっていた。</li> <li>・ひまわりが成長しているが終業式までに花が咲くことは難しそう。 (来年はもっと早く蒔く4月下旬頃)</li> <li>・ふうせんかずらの花が咲き、膨らんできたものがある。</li> <li>・年中の横のプランターと花壇にコスモスの種を14日に蒔いた。</li> <li>・大きなミミズがよく見られる。</li> <li>・みかんの青い実が膨らんできた。</li> <li>・年中子どもたちにひまわりの花になることを伝える。</li> <li>・セミの抜け殻があった。</li> <li>・大学図書館の横の大きな木にセミの抜け殻がたくさんある。 (子どもの背の高さでもわかる、見に行ってもいいのでは)</li> </ul>
8月25日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ひまわりが枯れる。来年は早めに植えるようにする。</li> <li>・みかんが緑、色の変化に気づけるよう緑色の今から見ていく。</li> <li>・メダカが4匹生まれる。</li> <li>・ふうせんかずらの種が取れる。</li> <li>・コスモスが咲き始めた。</li> </ul>
9月2日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お芋畑の雑草抜きをする。</li> <li>・お芋畑にバッタがたくさんいる。</li> <li>・暑さを感じていく。</li> <li>・ブルーベリーがまだ実っているのでいただく。</li> <li>・日影を感じる。</li> </ul>
9月9日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年長児が青虫を見つけ、クラスで世話をする。触っても角がでないことに気づく。年中児にも見せに行く。</li> <li>・ブルーベリーを2歳児親子教室でも食べ、甘くおいしかった。</li> <li>・かぶと虫の角を見つける。 (かたい、アリが運んできたのかと想像する子どもたち)</li> </ul>

9月16日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・裏山のどんぐりの木に緑色の実がついている。</li> <li>・りす組の砂場にはどんぐりの実が落ちている。</li> <li>・バッタの赤ちゃんがお芋畑にいたことを見つける。</li> <li>・年中児はコスモスの種を植え、子どもが水をやり成長を見ている。</li> <li>・ふうせんかずら、緑色の中には緑の種が、茶色の中には茶色の種が入っている。</li> <li>・朝顔の種を用務員さんがとってくれている。</li> <li>・青虫、はっぱちゃんと名前が決まる。</li> </ul>
9月24日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バッタの赤ちゃんが裏山、お芋畑で飛んでいた。</li> <li>・ひよこ組前のコスモスが開花。</li> <li>・イワシ雲を散歩で子どもと見た。</li> <li>・園庭にトンボが飛んでいる。</li> </ul>
10月7日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・十五夜、月がきれいに見えた。</li> <li>・裏山のススキがたくさんでってきた。</li> <li>・ふうせんかずらの種がたくさん落ちている。</li> <li>・さつまいもの葉がたくさん茂っている。土の近くの葉が黄色くなったら抜く時期。</li> <li>・裏山のどんぐり、子どもが見ても色づいているのがわかる。</li> <li>・りす組の裏にひつつき虫。子どもが気づく。</li> <li>・ざくろ2個割れる。年長組がいただく。</li> </ul>
10月29日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みかんの収穫 272 個。</li> </ul>
10月30日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お芋掘り。</li> <li>・チューリップの球根を植える。</li> <li>・ヒヤシンスの水栽培を始める。</li> </ul>
11月17日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年長組の裏の渋柿を収穫し、干し柿を作った。</li> <li>・いちょうの木が色づき始めた。</li> <li>・柿 27 個収穫。翌日各クラスに届ける。</li> </ul>
12月1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・センダンの木の葉、実が落ちている。</li> <li>・柿の木の葉が落ちている。</li> <li>・もみじがきれい。</li> <li>・さざんかの花が咲き始めた。</li> <li>・くちなしの実がなっている。</li> <li>・桜の葉、いちょうの葉が落ち始める。</li> </ul>
12月8日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・干し柿をいただいた。</li> <li>・夏みかんを収穫する。</li> <li>・裏山の赤い実はたんきり豆という名前であった。</li> </ul>

12月15日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏みかんをいただいた。</li> </ul>
1月8日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・姫りんごの葉が落ちて、実がよく見える。</li> <li>・銀杏の実だけついている。</li> <li>・柿の木の葉が落ちている。</li> <li>・冬みかんの葉は落ちずにある。</li> <li>・桜のつぼみがふくらみそう。</li> <li>・チューリップ、小鳥小屋の前にひとつ芽がでている。</li> </ul>
1月19日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒイラギの花が枯れ、葉がとげとげしている。</li> <li>・メダカは底でじっとしている。</li> <li>・カメはまだ冬ごもりしていない。</li> <li>・年中組の裏のプランターに植えたチューリップは芽がでてきている。</li> <li>・花壇の整備中、冬ごもりをしているてんとう虫を見つける。</li> <li>・お手玉を見た年少児がふうせんかざらみたいと言う。</li> </ul>
1月26日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カメが冬ごもりをしている。</li> <li>・先週氷が張った。</li> <li>・雪が降った。</li> <li>・花壇の土が凍り、霜柱を子どもと見つけた。</li> <li>・ゆげ（白い息）がでる。</li> </ul>
2月9日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・雪が降り、氷が張り、プールが凍っていた。</li> <li>・霜がキラキラしている様子を散歩で見る。</li> <li>・雪遊びをする。</li> </ul>
2月16日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒヤシンスが咲き始めた。</li> <li>・梅も咲き始めた。</li> <li>・子どもが植えたチューリップの芽がたくさん出ている。</li> </ul>
2月26日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タンポポが咲いた。</li> <li>・てんとう虫を子どもが見つけた。</li> <li>・黄色い蝶が飛んでいた。</li> <li>・裏山にクローバーの葉が出てきて子どもが見つけた。</li> <li>・カメが冬眠から目覚め餌を食べだした。</li> <li>・花壇にカラスノエンドウの芽が出ている。</li> </ul>

#### 4 評価の分析

##### 【現状の説明】

本園では、自然との関わりの中で散策を通して園内の自然に触れ四季の移り変わりを感  
 じることを大切に考えている。また、散策の中で子どもが見つけたことや感じたことを自分

の言葉で表現し、友だちと共有することでコミュニケーション能力を育てることもねらいとしている。1年を通し変化していく実がなる木等の様子を見ていき、収穫し、分け合ってもらい、経験や季節に見られる虫や小動物等に興味を持ち自ら気が付くことで、小学校生活での学びにつながるように意識している。各学年の具体的な取り組みや様子は以下の通りである。

## 1 学期

### (1) 園内散策について

#### <年少>

入園式に人形劇『ちょうちよの兄弟』を行っている。4月の保育の中で散策に行くと、「ちょうちよだ!」「見て! あっちにもいるよ。」と蝶に興味を持つ様子があった。園内に咲いているチューリップを見に行くと「赤色もあるよ!」「白色もある!」という声があったり、『チューリップ』の歌を歌ったり、タンポポ等この時期の草花に興味を持てるようにしている。また、ダンゴムシ、蟻、てんとう虫等の生き物を見つけ触れると、丸くなることを知ったり、くすぐったい感触に気づく様子があった。生き物にも命があることを伝えている。園生活に慣れてくると、散策の範囲を広げ、園内で世話をしているカモ、カメ、小鳥やうさぎを見に行ったり、シロツメクサを見つけ、かんむりやブレスレットにする子どもがいたり、クローバー、筍、梅の実、つつじなどの植物に興味を持てるようにしている。子どもたちは、あじさいの色や花の形に目を向けたり、壁や地面を這うかたつむりを見つけてじっと観察したりする姿があった。

暑くなってくると園内や裏山の木々からはセミの鳴き声が響き渡り、子どもたちは立ち止まって耳を澄ませたり、セミの抜け殻を見つけたりする姿が見られた。年少児の中には、抜け殻を手に取り「うごかないの?」と不思議そうに見つめる姿もあった。裏山ではカマキリを見つけ、恐る恐る触れてみたり、じっくり観察する姿が見られ、生き物への関心が広がっている様子があった。また、教員が植えたふうせんかずらの実がふくらんでいく様子にも気づき、袋をつぶさないようにそっと触れながら、日々の変化を楽しんでいた。

#### <年中>

年少時に感じた四季の変化を思い出しながら様々な変化や不思議さを感じたり興味を持てるように働きかけている。

春はクラスの友だちや担任と一緒に園内の散策に出かけ、緑の葉をつけているざくろ、柿の花、みかんや姫りんごの花、ジューンベリーの花、ブルーベリーの花等の園内の実がなる木の姿を見たり、桜や藤の花を見たりすることで、春の自然の美しさや冬から春との違いに気づく姿もある。

また、年少時に植えたチューリップが花を咲かせている姿を見て、自分の植えた球根が花をつけたことを喜び、色とりどりに咲いているチューリップの様子に歓声があがった。折り紙でチューリップの制作を通して、茎や葉、花の付き方等にも意識を向けられるようにしている。

陽射しの暖かさや吹く風の心地よさを身体で感じ、タンポポ、シロツメクサ、ダンゴムシや蝶、てんとう虫、バッタ、青虫等の身近な花や小さな生き物に気づき、触ってみようとする姿もある。年長児が園内で見つけ、お部屋で飼育している蝶の幼虫を見せてもらい興味を持つ姿もある。また、園で飼育しているカモ、カメ、うさぎ、小鳥の姿に興味を持ちじっと見入る姿もある。

保育室から見えるところにひまわりの種を植え、発芽の様子や大きく育っていく様子を担任と水やりをしながら興味を持てるように働きかけた。

梅雨の時期には園内のあじさいを見たり、大学に散策に出かけ、園と同じあじさいがあることに気づいたり、たくさんあじさいを見て色の違いに気づいたり、色のグラデーションの綺麗さに興味を持ち喜ぶ姿がある。雨上がりにかたつむりを見つけることもあった。年長児の植えたさつまいもやトマトの成長を見て、収穫を楽しみにする姿があった。

初夏には散策で梅の実に気づき、甘い香りを感じた。

七夕の季節には年長児が大学から大きな笹を運んでくる。お部屋やホールに飾られている笹を見て、笹が園にもあることに気づく姿がある。

夏の強い陽射しや暑さを感じ、園庭遊びでは木陰の涼しさや吹く風の心地よさに気づき、暑い夏には木陰の下で遊ぶ等を年中児なりに意識させるようにしている。また、セミの声を聞いて夏を感じたり、セミの抜け殻を探したりして興味を持つ姿もあった。

#### <年長>

進級時には、昨年全園児が植えたチューリップが色とりどりに咲いている。チューリップを見に行くと、自分が植えた場所を思い出しながら嬉しそうに見る姿があった。チューリップの花が散り、茎と葉だけになると、球根に栄養がいくようにしばらくそのままにし、葉が黄色になり枯れる頃に年長児が球根抜きを行う。分球している球根に気づけるように働きかけ、見つけると驚く姿があった。球根は大事に取っておき、秋に植えると、またきれいに花を咲かせることを知らせている。

みかんの木にはアゲハチョウが卵を産み、葉をよく見ると卵や幼虫を見つけることができる。子どもたちと幼虫を見つけ、保育室で育て、幼虫の変化を毎日観察していた。子どもたちと名前を決め見守っていくと、日に日に親しみを感じている様子であった。黒色だった幼虫が脱皮をして緑色になること、少しずつ大きくなっていくこと、怒ると黄色い角を出すこと、葉っぱをたくさん食べること、フンが少しずつ大きくなっていくこと等を実際に目で見ながら変化を感じ、子どもたちが自分たちで気づき言葉にし、伝え合うことを大事にしている。登園すると一番に幼虫の元へ行き、変化に気づくと後から来た友だちに教える姿があ

った。また、幼虫を手に乗せ、優しく触ることや小さな命を感じる経験になっている。さなぎになると蝶になるのを楽しみに待っていた。今年度は、保育中にさなぎから蝶が出てきて、子どもが気づき、羽化の様子をみんなで見守ることができた。しわになっている羽が少しずつ広がっていく様子を「きれい！」と興味深く見守る姿があった。飛べるようになると、みんなで園庭に出て蝶とお別れをし、空に向かって飛んでいく蝶を子どもたちは最後まで見送った。その日から、園内でアゲハチョウを見ると保育室で育てていた蝶ではないかと嬉しそうに追いかけてたりする子がいて、アゲハチョウの幼虫を育てる中で愛着をもって過ごしていたことがわかった。

梅雨の時期になると、あじさいのつぼみに気づき花が咲くのを楽しみにしたり、葉っぱの裏にかたつむりがいないか探す姿があった。

暑くなってくるとセミの声が聞こえ始め、夏の訪れを感じる。セミを探したり、セミの抜け殻やセミの幼虫が出てきた穴を見つけたりしていた。夏の夜の集いの散策では、セミの幼虫が、木に登っていく姿を探し、見つけられることもある。夜空を見上げ、月や星を見つけたり、カモやうさぎ、小鳥やカメが夜はどんな風に過ごしているのか興味をもって見る姿がある。

## (2) 実りについて

<年少>

### ・みかん

花が咲く頃から見に行き、その後どうなっていくのかの過程を知れるようにした。

### ・ジューンベリー

少しずつ色が変わっていく過程が見れるようにしている。食べごろの赤色になるとみんなですべて食べている。初めて口にする子どもが多く、はじめはブルーベリーという声も出るが食べてみるとブルーベリーとは少し違っているがブルーベリーみたい、美味しいといただく様子があった。

### ・ブルーベリー

成長を日々見守り、実が少しずつ色づいていく様子に子どもたちは関心を寄せていた。収穫の時期には、担任が実を摘み取る様子を間近で見たり、自分たちで水道で洗ったりしながら、皆で味わう経験をした。担任は、太陽や雨といった自然の力によって実が育つことに触れながら話をし、自然の恵みを皆で分け合って食べられる喜びを感じられるよう働きかけた。

### ・さつまいも

年長児が植えたさつまいもの苗がどう育っていくのか楽しみで見れるようにしている。苗の時に見た時には、「これ何？」と何になるのか分からない様子があるが、少しずつ成長

していく様子を興味を持って見る様子があった。

・トマト

年長児が育てているトマトの成長を日々見守ってきた。『トマト』の歌を歌ったり、園内散策でトマトを見ていると、年長児から「実が赤くなってきたよ。」等と変化を教えてもらう場面があり、子どもたちはより身近に感じていた。たくさん実ったトマトは、年少児にも届けてもらい、皆で分け合っていた。教員は、分け合って食べる喜びや、届けてくれた年長児への感謝の気持ちに目を向けられるよう働きかけた。トマトが苦手だった子も、これまで成長を見守ってきた経験や年長児との関わりを通して、「ようちえんのトマトはおいしい。」と言いながら口にする姿が見られた。

<年中>

・ジューンベリー

赤く色づいてくると、自分で一粒選んで収穫し、みんなでいただいた。年長児に濃い赤い色が甘いんだよと教えてもらい、真剣に選ぶ姿があった。

・ブルーベリー

年少時に食べた経験から、ブルーベリーの緑の実を見て色づいてくるのを楽しみに待つ姿があった。色づいた実を自分で収穫する。ジューンベリー同様に、おいしそうな実（大きくて色の濃いもの）を一粒選んでみんなでいただいた。太陽の日を浴びて大きく色づいたブルーベリーの甘さに喜び、おかわりしたい！と子どもたちからたくさん声があがった。

・トマト

年長児の育てたトマトが色づき収穫したものを届けてもらい、みんなで少しずつ分け合っていた。年長児が育てたトマトを喜び、苦手な子も食べてみようとする姿もあった。

<年長>

・ジューンベリー

春には白い花が咲き、子どもたちと散策で見て、実がなるのを楽しみにしていた。夏前になると赤い実をつけ、子どもたちが「もう赤くなってたよ！」と気づき、担任に教える姿があった。食べ頃になると、自分で収穫し、いただいた。

・トマト

子どもたちの前で苗を植えて、子どもたちが水やり当番をする。水は根っこから吸収するので水は土にかけることを知る。葉からもトマトの香りがすることや、少しずつ背が伸びていくこと、黄色い花を咲かせること、花のあとに実がなること、緑色から赤色に変化していくことを、水やりをしたり、毎日見守りながら、子どもたちが気づくことを大事にしている。赤くなったトマトは、自分たちで収穫しいただく。たくさん実ると、年少児や年中児にも届けている。苗から育てることで、何気なくスーパーに並んでいる野菜も、大事に育てられて

いることを知るきっかけになることを大事にしている。

・柿、みかん

柿の木に若葉が茂る頃、子どもたちと様子を見に行き、若葉に触れ、葉の柔らかさを感じる。5月頃には柿やみかんの木に、花が咲く様子を散策を通して知る。花の後には、小さな実がなることを知る。

・ざくろ

オレンジ色の花を咲かせ、がくが木の下に落ち始める。子どもたちは「タコさんウインナー！」と言って捨てる姿がある。実は美味しく食べられることを知る。

・さつまいも

チューリップの球根を掘り出した後の畑に、6月上旬年長児がさつまいもの苗を植える。散歩で見に行くと、植えた直後は元気のない苗が、数日後にぴんと張っている様子に気づき、安心する姿やさつまいもができるのを楽しみにする姿がある。

・ブルーベリー

実が緑色から紫色になるのを、散歩に行きながら子どもたちと見守り、いただくことを楽しみにしている。食べ頃になると自分の手で収穫し、採れたてをいただく。年中に食べたことを思い出し、舌がブルーベリー色になっていることを面白がる姿がある。

### (3) 自然物を取り入れた遊びについて

#### <年少>

砂場や裏山には草花や木がたくさんあるため、子どもたちはいつも植物を感じることができる。また、木によってそれぞれ葉の形や固さが違っていることにも気づき、興味を持つ様子があった。裏山の遊具からは空もよく見え、色々な形の雲を見つけたり、晴天で雲にも気づく様子があった。

梅雨の時期では雨の音や空の暗さなどを感じられることを大切にしたい。『あまだれぼったん』『ぼとぼとぼと』などの歌を通して、雨の様子を言葉やリズムで楽しむ姿が見られた。

裏山では笹の葉が柔らかく香りのよい時期であったため、葉を使った遊びを通して、季節ならではの自然に親しむことができた。教員が笹の葉でおにぎりを作り、“おにぎり屋さんごっこ”を始めると、子どもたちは「鮭おにぎりください。」などと言いながら遊びに参加し、ごっこ遊びが次第に広がっていった。教員は、見て・触れる体験を大切にしながら、自然を五感で感じられるようにした。

#### <年中>

保育室前の園庭で戸外遊びを楽しむ中で、水を使った泥んこ遊びを楽しんだり、裸足になって土の感触を感じたり、解放感を味わって遊ぶ姿がある。雨上がりには裸足になり水たまりに入ってみたり、泥んこの感触を楽しんでいた。

教員が作った笹舟を水に浮かべて遊んだりして遊びに取り入れていた。

<年長>

泥遊びでは裸足になり、泥の感触を感じながら遊んでいる。水と混ぜながら調節し、色々な柔らかさの泥で、ホットケーキを作ったり、水を多めにし飲み物を作ったりして遊んでいる。

七夕で笹を知り、笹船を作ることに挑戦する姿や、笹でキャンディーやおにぎりを作って遊んでいる姿が見られた。

## 2学期

(1) 園内散策について

<年少>

園内では彼岸花が咲き、「これは何のお花？」と、これまでとは違う花の色や形に気づく様子が見られた。また、園内の花壇やお芋畑ではたくさんのバッタを見つけ、捕まえたり観察したりする中で、虫との関わりを楽しんだ。自然の中での発見が遊びへと広がるよう、子どもの気づきに寄り添いながら関わった。

10月には園内のススキも少しずつ出始め、保育室に飾っていたことから、「あそこ(砂場)にも同じのがある！」と気づく声があった。裏山で遊ぶ時にも、数日前まではなかったススキに気づく姿があった。ススキは稲穂に似ていることから、“美味しいお米がたくさん収穫できますように”と飾ったことを伝えた。

紅葉した桜の葉が落ちるようになった頃に“葉っぱ入れ”を作った。葉っぱを見つけに行くと、オレンジや黄色、茶色等それぞれの葉の色の綺麗さや葉の周りがギザギザしていることに気づく姿があった。葉っぱ入れは繰り返し作り、園内を散歩しながら落ち葉拾いを楽しんだ。

年長児が収穫した柿をいただいた後、柿の木まで行き、柿の葉の紅葉を知らせた。大きな柿の木の葉が綺麗に色付き、葉に囲まれて「お家みたい。」「きれい。」と心を動かす姿があった。

いちょうの葉を集めるといちょうの花束ができることを知らせ、クラスのみんなで作って持ち帰った。花束ができると嬉しそうな様子があった。

センダンの枝や実が落ちるようになり、登園時や散歩の時等に拾う姿があった。枝は「ポッキーみたい。」と話していたり「長いのがあった！」と友だちと見せ合ったり長さを比べたりする姿があった。保育室から風が吹くとセンダンの葉や枝が落ちるのを見る姿もあった。

園内の赤い実を知らせると、「ここにもある！」「こっちにも見つけたよ。」と、赤い実探しを楽しんだ。赤い実でも南天、千両、万両等の実の違いに気づく声もあった。後日、「家

の近くでも見つけたよ。」という声もあった。

さざんかが咲き始めていることを知らせた。綺麗に花を咲かせているのを見て、「きれい。」と言う声やまだつぼみを見つけて「まだ眠っているね。」という声もあった。数日後にはよりたくさんの花が咲いていて「いっぱいになってる！」と変化に気づく声もあった。たき火の歌を歌い、歌にも出てくる花であることを知らせた。

散策のときに見ていたメダカの姿が見られなくなった。冬になって寒くなってきたので底で冬ごもりをしていることを伝えた。「風邪ひかないでね。」とメダカに向けて声をかけたり「また見えるかな。」と話す姿があった。

11月に葉っぱ拾いをした木の葉が全部落ちて、“はだかんぼの木”になっていることを知らせた。「こっちははだかんぼだよ。」「ここははだかんぼじゃないね。」と、園内の落葉樹と常緑樹に気づく声があり、子どもたちと違いや不思議を感じながら散策をした。「寒そうだね。」という声もあった。

寒さを感じるようになり、散歩や外で遊ぶ時に日向の暖かさや日陰の冷たさを感じられるように声をかけてきた。自然と、「寒い…。」「お日様でてきてー！」と話す声や、日向に寝転がって「あったかい。」と暖かさを感じる様子が見られた。

<年中>

始業式の日、夏休み前から成長を見守ってきたひまわりの様子を気にする年中児。上手く花が咲かなかったことを担任が子どもたちに伝えると、“水が足りなかったのでは”“暑かったから”等子どもなりに理由を考える姿がみられた。夏休み前に聞こえていたセミの鳴き声がないことに気づき、残暑の中でも季節が変化していることを感じていた。年中組保育室の裏にプランターを置き、コスモスをひまわりと同じように種から育て、芽が出ることを実際に見て成長を楽しみにしてきた。茎がのび、つぼみができ始めていることを散策に行った際に子どもたち自身で気づいていた。

バッタやトンボ、カマキリなどは10月ごろに見られるようになった。子どもたちは散歩や園庭遊びの際に虫を見つけ、近くで観察したり、手のひらに乗せようと優しく触ったりする姿も見られる。今年の秋の訪れは10月後半で、この頃になって少しずつ桜の葉が紅葉してきた。子どもたちは吹く風が涼しくなったこと、朝晩の気温が下がったことを肌で感じ季節の変化を感じていた。少し前の散策では緑だった裏山のどんぐりが茶色く色づき、木から落ちている様子をみんなで見たり、柿の木の葉が綺麗な柿色になっている様子を見たり、いちょうの木にたくさんの銀杏が実っていることを目にしている。更に寒くなるといちょうの葉も紅葉し、色付いた葉で花束をつくったり、園庭遊びの玩具にしたり、髪飾りにして遊ぶ姿がある。

季節が冬になると落葉樹が“はだかんぼ”になること、北風が冷たいことに気づく。

<年長>

バッタやカマキリが姿を現し、見つけたり、捕まえたりする姿がある。友だちと交代で手に乗せたり、手から自由に進んでいくカマキリをくすぐったように優しく受け止める子や、その姿に笑い合う子どもたちの姿がある。

秋になると、秋の七草であるハギ・ススキ・ナデシコ・キキョウを子どもたちと見つけ、秋の訪れを知り、感じられるようにしている。風が冷たくなり寒くなってくると、桜やもみじ、柿、ジューンベリー、ブルーベリー、いちょうの葉が色づき、それぞれの葉っぱの色合いに目を向け、落ち葉を拾いお土産にする姿がある。センダンの木の下には、黄色い葉がたくさん落ちていて、落ち葉の絨毯になっている。子どもたちは、両手いっぱい集め上に舞わせたり、友だちとタイミングを合わせたりしながら遊ぶ姿がある。クスノキの葉が落ち、葉についているナミアゲハの幼虫やさなぎを見つけることもあり、春の経験から、保育室で育てたいという声があがった。

冬になると、落葉樹と常緑樹があることに気づけるよう働きかけている。うさぎの毛が冬毛に変わっていることや、虫たちがいなくなっていること等、小さな生き物の変化からも冬の訪れを感じられるように働きかけている。

## (2) 実りについて

<年少>

### ・さつまいも

年長児の芋ほりを見に行った（10月30日）。畑の葉が茂っていることを散歩の時に見ていた。「なにかな。」と話をしたり「(自分の)手より大きい！」と葉っぱの大きさに驚いたりする姿があった。年長児が掘る姿を見ると、「お芋だったんだ！」と気づく声があった。「自分もやりたい」と畑に入るようなことはなく、自然と“大きいくみさんの仕事”と感じて、畑の傍から年長児の姿をよく見ていた。「赤ちゃんのお芋だね。」「こっちにもあるよ！」「がんばれ。」等と、近くで見ていたからこそ、興味を持って見ていた。

焼き芋にさせていただいた（11月14日）。年長児がお芋が焦げてしまわないように、新聞紙やアルミホイルを巻いて準備してくれている様子を見た。用務員さんがたき火をし、園内の落ち葉や枝を使って焼き芋をする様子を全園児で見て、出来上がりを楽しみにした。焼きあがったお芋を割ると湯気がでたり、美味しそうな黄色になっていることを見て嬉しそうにする姿があった。「おいしい。」「あまい。」と友だちと一緒にいただいた。保育室では『やきいも』の手遊びを楽しんだ。

### ・みかん

年長児が収穫したみかんを保育室まで届けに来てくれた時には、「はやく食べたい。」と楽

しみにしていた。年長児がはさみで枝を切って収穫したことを知らせてくれ、子どもたちはよく聞いていた。届けてくれたみかんを見た時に、枝が斜めに切れていることに気づき、「ここを切ったんちゃう？」と気づく声があった。皮を剥くと「おいしそう。」「いい匂い。」という声が挙がり、みんなで少しずつ分けていただいた。「おいしい。」「あまずっぱい。」という声があった。“たくさんいただいたので、残りはまた今度のお楽しみにしよう”と伝えると、次にいただく日を楽しみにしていたり、欠席して食べられなかった友だちのことを思い、「みんなでまた食べようね。」とクラスの意識が少しずつ育まれていることを感じた場面もあった。教員が剥いた皮をザルに入れ、日に当てて干し、皮が干されていく様子も生活の中で見ていく。

#### ・柿

年長児が届けてくれた時には、「やったー！」と言う子もいれば、「食べれない。」と言う子もいた。年少児にとって、柿は初めて口にする子もいた様子だった。柿を割ってみると、中に種が入っていることに驚く姿があった。はじめは、“食べない”と言っていた子も、クラスみんなでいただく用意をしていると興味を持って食べてみる子もいた。

#### ・ざくろ

ほとんどの子が初めて目にしたり耳にしたりする様子だった。ざくろという名前を知らせ、割ってみると中にたくさんの実が入っていることに驚いていた。「キラキラしてる。」「宝石みたい。」「おいしそう。」という声があった。ひよこ組は台湾からの留学生の方が来ていたので、一緒にいただいた。実の中に種があるので、その周りを食べることを伝えた。子どもたちは見よう見まねで食べていた。「おいしい。」「おかわり！」とみんなで分けていただいた。

#### ・銀杏

散策で銀杏の実がすずなりになっているところを見て知る。保護者会である「はぐくみの会」の方、お手伝いの保護者の方が銀杏洗いをしてくださっているのを見た。(11月12日)  
“銀杏は動物に食べられないように匂いがすること”“触るとかゆくなったりするので、触らないこと”を伝えてきた。洗われた銀杏の種を数日間太陽の下に干す様子を見てから銀杏をいただいた。“これから寒い冬を風邪を引かないで元気に過ごせますように”とみんなで一粒いただいた。初めて口にしたりした子も多かったようで、「にがい。」「食べれない。」という子もいた。

#### ・干し柿

年長児が園内の渋柿を干して、干し柿を作っているのを、散歩や年長児の保育室を通る時に見てきた。“渋柿はそのまま食べると渋い味がするけれど、皮を剥いて干すと美味しい干

し柿になること”を伝えた。口に運ぶと、「あまい。」「おいしい！」と味わって食べていた。

・夏みかん

今年はずっとたくさん実り、年少児もいただいた。裏山に散策に行った時に夏みかんが実り大きくなっていく様子を見てきた。割ってみると、いい香りがした。皮を剥いて中の実をいただいた。「おいしい。」「レモンみたい。」「みかんよりすっぱい。」という声があった。

<年中>

・ブルーベリー

9月にもいただけるほどの豊作で、何度も自分で収穫していただくことができた。“濃い色が美味しいこと”をだんだんと理解できるようになった年中児は何度も収穫する中で上手く選べるようになっていく姿があった。みかん、ざくろ、姫りんごは園庭遊びの時にも目に入るため、日常の中で関心を持ち“色付いている”“実が膨らんでいる”と気づいていた。

・みかん

年長児が収穫している様子を年中の廊下から実際に見ることができ、年長児がみんなの仕事として取り組む姿を見ている。収穫したてのみかんのにおいを嗅がせてもらったり、実際に手で触る姿もある。いただくときはクラスで集まり、クラスの友だちと「美味しそう」「良い匂い」と気持ちを共有できるひとときがもてるようにしている。みかんは皮を剥き、剥いた皮はみかん湯のために乾かしておく。

・柿

包丁、まな板を用意して皮を剥く様子や分ける様子を見せることも大切にしている。

・ざくろ、銀杏、夏みかんなど実りをいただいている。

<年長>

・さつまいも

夏休みが明けると、苗を見に行き、雑草がたくさん生えていることに気が付き、雑草抜きに行っている。根っこまで抜けるように力加減を意識できるようにし、雑草を抜くことで栄養がさつまいもに届き、おいしい実になるようにという気持ちで取り組めるようにしている。土の近くの葉が、黄色くなったら収穫時期であることを子どもに知らせ、子どもたちと時期を見計らっていた。黄色くなった葉を見つけ、後日お芋ほりを行う。ツルを引っ張り、手でさつまいもを傷つけないように優しく掘ることを意識させている。大きなものから小さなものまで、色々な形のさつまいもを見つけて嬉しそうに取り組んでいる。小さなさつまいもは、後日ふかしいもにさせていただき、大きなさつまいもは、後日焼き芋にさせていただく。自分たちで掘ったさつまいもは格別のように、美味しそうに頬張っていた。

・ざくろ

実が膨らんでいく様子を見守りながら、割れた実が食べ頃であることを知り、楽しみに待つ。実が割れると子どもたちから、「割れてるよ！」と担任に知らせる姿があった。子ども

たちの前で教員が収穫し、採れたてをいただいている。宝石のようなざくろの実を見て「きれい！」「おいしそう！」と話す姿があった。

・銀杏

実が緑色からオレンジ色に変化している様子を散策で見て、知る。冬が近づくと実が木の下にたくさん落ちているのを、散歩や遊んでいる時に目にする。保護者の方が、銀杏洗いをしてくださっている様子を見に行き、銀杏の香りを感じたり、銀杏の香りは動物から身を守るためのものだと知ったり、どのように銀杏を洗っているのかを知る。その後、洗った銀杏は干し、冬至が近づくと頃、一粒ずついただいている。年長児は自分で殻と薄皮を剥いている。きれいな色の実が出てくると嬉しそうにする姿がある。

・柿とみかん

実が大きくなっていき、緑色から色づく様子を散策で知る。美味しくなるのを楽しみに待っていた。例年は年長児が収穫していたが、今年は柿の実りが少なく、また、高い位置になっていたため、子どもたちの前で担任が収穫した。実りが少なかったり多かったりすることも自然の摂理として、子どもたちが知れるのはいい機会であると考えている。みかんは、はさみを使い子どもたちが収穫した。収穫したみかんを、近くで見ている年中児に見せに行く姿があった。収穫した柿とみかんは、園のみんなで分け、いただく。みかんは、自分で皮を剥いていただいた。皮は干して、寒い日にみかん湯にして手を温めている。

渋柿は、教員と用務員で収穫する様子を見る。このままでは渋い柿が、干すと甘くなることを知り、担任と教員が渋柿作りをする様子を興味をもって見る。干している柿を見ていただくのを楽しみに待つ。少しずつ分けていただき、甘く美味しくなっていることに驚く姿があった。夏みかんは、担任が収穫し、保育室に戻り子どもたちの前で皮を剥きいただいた。みかんとは違う酸っぱい味にも、「おいしい！」と食べる姿があった。夏みかんや渋柿は、種が入っていることに喜び、家に持って帰って植えたいとお土産にする姿があった。

(3) 自然物を取り入れた遊びについて

<年少>

10月に入り、裏山のどんぐりが茶色になり、落ち始めた。緑のどんぐりが落ちている頃から見えていたので、子どもたちはどんぐりが茶色になっていることに気づく姿があった。

『こならぼうやのぼうし』の絵本を読んだり『どんぐりころころ』の歌を歌ったりして過ごしていた。どんぐり入れを作り、どんぐり探しを楽しんだ。「あかちゃんどんぐり。」「帽子つき！」「これはママにお土産。」など、思い思いに拾っていた。

松ぼっくりもよく落ちるようになった。保育室では『松ぼっくり』の歌を歌っていた。大きな松ぼっくりや小さい松ぼっくり、閉じている松ぼっくり等を見つけて嬉しそうにしていた。欠けたり、割れている松ぼっくりを見つけると、「おさるが食べたのかな。」と歌から想像するような声もあった。子どもたちが裏山で拾った松ぼっくりで、松ぼっくり釣りをし

て遊ぶこともあった。輪ゴムでひっかけて釣るのに、苦戦したり試行錯誤したりして楽しんでいた。

松葉でお相撲遊びができることを知らせた。はじめは松葉を互いに挟むことが難しい様子だったが、手を貸したり何度も繰り返し遊ぶうちに、自分たちで遊ぶ姿が少しずつ見られつつある。何度も繰り返し遊び、勝ったり負けたり引き分けになったりするのを楽しんでいた。

落ち葉を小さくくり抜いて目や口を作って影絵遊びができることを知らせた。小さくくり抜くことはまだ年少児には加減が難しく、担任と一緒に作って遊んでいた。おぼけのような影絵になったり、大事そうに持って遊ぶ姿があった。

落ち葉が園内の様々なところで落ちるようになり、砂場でも砂のケーキに自然物を飾り付けする姿が見られるようになった。落ち葉をチョコにしたり枝をロウソクにしたり、実や石をトッピングに使ったりして遊ぶ姿が見られるようになった。お庭でのおたのしみ会（10月10日・14日・15日）では、園庭で保護者の方と一緒に砂を使ってカップケーキを作り、園庭に落ちているクスノキの葉や実を飾り付けにする姿があった。

裏山のタンキリマメの実がなり、ツルが巻くようになった。遊んでいる時に自然と気づく様子があり、実を拾ったりツルを引っ張ったりする姿があった。ツルでリースのようなものを作ってお部屋に飾ったりした。

園内のいちょうやもみじの葉が落ちるようになった頃、折り紙で葉っぱ入れを作り、葉っぱ拾いを楽しんだ。

#### <年中>

園庭の木々にも実がなり、子どもたちは園庭遊びの玩具として取り入れている。いちょうの葉を集めて花束を作ったり、髪飾りにしていた。色づいた葉をケーキなどの飾りにしたり工夫する姿があった。さざんかの花びらを集めて園庭でのごっこ遊びに使う姿もある。

#### <年長>

葉が落ちる季節には、色々な種類の落ち葉を集めたり、いちょうの葉を1枚ずつ丁寧に重ねて花束を作る姿があった。センダンの木から落ちた枝を集め、砂遊びで作った山に差し込んだりして遊ぶ姿がある。木の実や石をケーキのトッピングにして工夫したり、落ち葉も加えて、うさぎやクマの顔に見立てて遊ぶ姿もあった。

### 3学期

#### (1) 園内散策について

#### <年少>

1月、門の横やカモ小屋の近くにさざんかが咲いていることに気づき、「ピンクでかわいいね。」「お家の近くでもあったよ。」という声があったり、『たきび』の歌の中でもさざんかが出てくともあり、子どもたちは見つけると「これさざんかだよ。」と嬉しそうにしている様子があった。また、『冬ごもり』の歌を歌い、寒い冬をカメはどう過ごしているのか見に行っている。「今日カメさんここにいるよ。」「カメさん寒いのかな。」とカメが冬の間どう過ごしているのか興味を持って見る様子があった。

気温が下がる日の前日に砂場のシートに水を撒いておいたり、雨水がたまり氷ができる子どもたちと一緒に見に行った。氷の冷たさや固さなど実際に触って子どもたちが感じられるようにしている。子どもたちは「冷たい。」「気持ちいいよ。」と触っていたり、その氷を割って色々な形になることを楽しんだり、少しずつ溶けていく様子も興味を持っている様子があった。

11月末にヒヤシンスの球根の水栽培を始め、少しずつ根や芽が出てくる過程も見れるようにしている。何色の花が咲くのが楽しみに待っている様子があるので、花が咲いたときに嬉しそうにしている様子があった。また、花の甘い香りがしたりすることにも気づき、一度咲いた後またつぼみがつき、花が咲く不思議さにも興味を持てるように働きかけてきた。

11月末に子どもたちが植えたチューリップの芽が出て、茎が伸び、つぼみになっていく過程を見れるように散策をし、子どもたちが興味を持てるように働きかけていた。子どもたちは自分たちで植えたこともあり、「まだかな。」「ピンクかな？」と花が咲くのを楽しみにしている様子があった。

#### <年中>

冬の散策では落葉樹が“はだかんぼ”になること、北風が冷たいことに気づいたり、冬に花を咲かせるさざんかに目を向けられるようにしている。気温が低い日は園で飼育しているカメが池の底で冬ごもりをしている様子を見に行き、お部屋で歌っている“ふゆごもり”のうたにもあるように生き物たちが春を待っている様子を見ている。

2月は更に寒さが厳しくなり、雪がちらついたり氷が張る日も経験する。花壇の土が水を含んで凍り、固まっている部分を触ってみたり、霜柱ができていることを実際に目で見て、触った。たらいに張った水が氷になっている様子や砂場を覆うシートに溜まった水でできた氷は手に持ってその冷たさを感じたり、太陽の光に当てて「きらきらしてる。」と透かしてみたり、葉っぱと一緒に凍っていることに気づいてその面白さを友だちと伝え合う姿があった。お部屋で育てているヒヤシンスは2月に芽を伸ばし、やがてつぼみを見せる。少しずつ変化する様子を毎日観察し、楽しみにしている。花が咲くとその匂いを感じることもできる。節分が過ぎると、気温は低いけれど植物は季節の変化に合わせて春の準備を進めていることが感じられる。真冬に“はだかんぼ”だった落葉樹は枝に木の芽をふくらませている

こと、チューリップの球根が次々と芽を出していることなどに散策で気づけるようにしている。

<年長>

寒い日には、バケツやたらいの中に氷が張るように水をいれておいた。登園してきた子どもたちは、氷が張っていることに気づき、嬉しそうに触ったり、「凍ってる!!」と友だちに教えたりしていた。クラスで散策に出かけると、まだ凍っているのを見つけ、それぞれ手に持ち、太陽に当てて「きれい!」と担任から霜柱の話聞き、土に霜柱ができていないか、探す姿もあった。

立春の日には、春の訪れを探しに行く。園内の木々には木の芽やつぼみがたくさんついており、子どもたちは次々に発見し、友だちに教え合う。チューリップ畑に行くとき自分が植えたチューリップの球根から、芽がでてきたことを喜ぶ姿があった。

(2) 自然物を取り入れた遊びについて

<年少>

千両、万両、南天の赤い実を見つけ、大事そうにお土産にする子がいたり、砂場で実を見つけた時には土でケーキやプリンを作った時にトッピングにして遊ぶ様子があった。

<年中>

園庭のクスノキの実やセンダンの実、さざんかの実、南天の実を拾っては、ごちそうにしたり、飾りに使ったりと自然物を取り入れて遊ぶ姿がある。

<年長>

氷を割って小さくして、「氷屋さんです」と友だちや教員に声をかけ、氷を配っていたり、氷に砂をつけて、天ぷらを作っていたりした。

### 【点検・評価と今後の取り組み】

保護者アンケートの『本園の豊かな自然環境に魅力を感じますか。』の問いに対し、「A 感じる」との回答が98.4%であった。記述回答では、「多くの自然と触れ合うことで感受性が豊かに育つと感じます。」「改めて自然豊かな環境なんだと思いました。」「今の時代には貴重な環境だと思い、有難いです。」「園にいてだけで四季が感じられるのは嬉しいです。」「四季を感じられる環境が、入園の決め手でした。」等、自然豊かな環境の中で四季を感じれること、草花や植物、虫などと触れ合える環境に魅力を感じていることがわかった。

園内散策について、保護者アンケートの『園内の散歩では、子どもたちが自然の中から季節の移り変わりに気づけるように働きかけています。お子さんが季節の変化を感じているように思いますか。』の問いに対し、「A 思う」との回答が83.1%であった。記述回答では、

学年を問わず「木の葉の色、季節の変化など幼稚園で聞いたことを話している。」「季節ごとの実りの話はよく話してくれる。」「秋の葉の色の変化について、外で見かけた時も話しています。」「親でも知らなかった園内の自然の実りを教えてくれて嬉しいです。」などが多くあり、子どもから自然を通しての保育が伝わっていることがわかる。このことから、散策の際に教員が話していることと実際に見たことが繋がったり、子どもが自ら気づいたり、発見したことで印象に残り、家庭での話題になっているのではないかと推測する。

実りについては、保護者アンケートの『実がなる木の変化や季節の移り変わりが発見できる環境に魅力を感じますか。』との問いに対し、「A 感じる」との回答が97.7%であった。記述回答では、「実際に実がなる木を目にすることは少ないので自然豊かな環境はありがたいです。」「家では経験できないので貴重な経験だと思う。」との記述があった。また、『ジューンベリー、ブルーベリー、トマト、ざくろ、みかん、柿、さつまいも、銀杏、園の実りをいただいたことを園の便りやクラス懇談会、ホームページ、お子さん等から伝わっていますか。』の問いに対し、「A 伝わっている」との回答が93.8%であった。記述回答では、「園で食べたことを話してくれます。」「嬉しそうにおいしかったなど話してくれます。」など感想を家で伝えていること、加えて年長組については、自分たちが収穫したこと、年少・年中組へ届けたこと、味の感想、友だちと話したことなど自分が経験したことを言葉にして伝えることでより詳細に保護者に伝わっていることがわかった。

自然物を取り入れた遊びについては、保護者アンケートの『土や砂、水を使い、木の葉や実、石等自然物を見つけ感覚を働かせて遊ぶことを大事にしています。お子さんは戸外遊びを楽しんでいると感じていますか。』の問いに対し、「A 感じている」との回答が93.1%であった。記述回答では、年中・年長組では、「園庭で泥んこ遊びや戸外遊びの話子どもが楽しそうに話している。」「体操服が汚れて帰ってくるので楽しんでいるのだと思う。」「葉っぱや小石をお土産に持ち帰ってくるので。」等があった。年少組では、「お山に行った話をよく聞くので。」「幼稚園で見つけたどんぐりを大事に持って帰ってくるので。」「砂場が楽しかったと話すので。」「松葉相撲を教えてくれた。」等の記述があった。子どもを通して、園での様子が家庭に伝わっていることがわかった。また、『紅葉した葉をプリンやケーキの飾りに使ったり、花束を作ったり、子どもが遊びに自然物を取り入れていることが園の便り、クラス懇談会、ホームページ、お子さん等を通して伝わっていますか。』の問いに対して、「A 伝わっている」との回答が73.1%であった。年長・年中児になると子どもが自分の遊びについて家庭で詳細に話すことで、自然物を用いた遊びより、鬼ごっこや集団遊びを好むことがわかり、「C あまり伝わっていない」を選択したことが記述回答からわかった。自然物を取り入れた遊びでなくても子どもが自分の好きな遊びを見つけ思いっきり楽しめることを大切に

しており、それを言葉で保護者に伝えられることは成長であると思う。中には、年少児の言葉で表現する発達段階を踏まえると保護者に伝わり切れていない現状も知ることができた。今後もこの豊かな自然環境を保育に活かせるよう、教員で理解を深め、自然の営みや季節を感じ、子どもが自ら発見や不思議と思う気持ちを持てるよう3年間かけて育んでいきたいと思う。地球温暖化により、春や秋などの心地よい季節が短くなっているが、時期を逃さず子どもに働きかけられるようにより一層努めていく。

## 5 学校関係者評価委員会からの評価結果

### 〈自己点検・評価の適切性〉

関西大学幼稚園では、2009年度から毎年自己点検・評価を行ってきている。2020年度からは、本園の教育内容と幼稚園教育要領の5領域との関連に焦点を当てて5年かけて評価し、保護者と教員が本園の教育について理解を深め、園が保護者のニーズを理解するという双方向の理解を進める上で、適切に自己点検・評価が行われてきた。

今年度は園の豊かな自然環境に焦点を当てて自己点検・評価（学校評価）を行っている。これまでクラス懇談会後にアンケートを行っていたが、今年度は懇談会に参加できない保護者にもアンケートに答えていただけるよう全保護者にアンケートを配布し、82.7%の回収率であった。子どもの教育に高い関心を持ちつつも仕事の都合等で懇談会に参加できない保護者にとっては、日頃感じていること、考えていることを示すことができ、子どもの教育により高い関心を持つ良い機会となったであろう。これまでの自己点検・評価はいずれの年度も保護者から非常に高い評価を得てきており、今年度も同様の結果であった。園の自然環境についてはこれまでの自己点検・評価でも評価項目に上がってきていたが、今年度はこれを全面的に評価した形である。本年度においては、子どもの健やかな成長を保障するために、子どもが生活する場の自然環境は保護者にとって最も関心の深いものであり、子どもの健やかな成長に大きく関係していくものであることから、保護者が本園について理解を深める上で適切に自己点検・評価が行われている。

### 〈重点的な取り組みの適切性〉

今年度は園の豊かな自然環境に焦点を当てて自己点検・評価（学校評価）を行っている。園の自然環境についてはこれまでの自己点検・評価でも評価項目に上がってきていたが、今年度はこれを全面的に評価した形である。

子どもの生活する場の安全は保護者にとって最も関心の高いものであり、学校評価を行うにあたってはまず、教員が豊かな自然環境への理解を深めることや確かめることが必要と考え、自然の変化について発見したことを職員会議で出し合い、刻々と変化する自然を理解していった。日々の保育に加え、園内の植物を丹念に観察することは想像以上に多くの時間を要したと思われるが、報告書からは教員が発見の喜びを感じながら観察に勤しんだ様子が伺われ、子どもの目線

に立って自然に溶け込みながら観察したであろうことは想像に難くない。それまでわかっていなかった植物、その植物と生活を共にする小さな生き物を見つけた時の感嘆の聲が聞こえてきそうである。

本園は74年の歴史を持つ幼稚園であり、開園当時からの植物もたくさんあるという。園の歴史と同じだけ植物の歴史もあり、それぞれの時代にそこにいた教員や子どもたちや保護者が一つ一つを大切にされた歴史でもある。現代に近づくにつれ、自然環境は失われる傾向にある。そのような中で本園は自然環境を守りながら、四季折々の植物を教育の中に取り込み、教育課程を組み立ててきた。それは幼稚園教育要領にある5領域の環境の中で、自然を教育に取り入れることの理解を大切にしてきた。豊かな自然環境がもとにあり、それにあった歌を歌ったり、自然の恵みを味わったりしている。

ところで、近年、心理学では同調バイアスが語られることが多い。これは、周囲の考えや行動に無意識に合わせてしまうことを指しており、自身の考え・意見よりも他者の考えに合わせてしまう。もちろん集団の間では他者の考えを尊重することは大切であるが、自身の気持ちを抑えて他者に合わせる事が常態化してしまうと、いつか苦しくなるのではないだろうか。子どもなりに人に合わせるばかりではなく、思ったことは言ってもよいという気持ちを育てることも大切である。頭で考えるだけでなく自身で体験し、経験を通して考えていくことの大切さを教えてくれている。これらのことから、自然環境に焦点を当てた自己点検・評価は重点的な取り組みとして適切である。

#### 〈結果を踏まえた改善方策の適切性〉

保護者アンケートでは、「園の豊かな自然環境に魅力を感じる」が98.4%、「実がなる木の変化や季節の移り変わりが発見できる環境に魅力を感じる」が97.7%など、保護者が園の魅力をよく理解しておられることがわかった。また、「子どもは自然物を取り入れた戸外遊びが楽しいと感じている」が93.1%と、子どもにとっても園の自然そのものや自然をいかした教育のありようが魅力的であることが伝わってきた。そのような中で、「子どもが遊びに自然物を取り入れていることが園の便り、クラス懇談会、ホームページ、子どもを通じて伝わっているか」の問いには73.1%であった。これに対しては、学年ごとに理由を検討し、記述回答から、年長・年中児は年少児に比べて自然物を用いた遊びより、友だちとルールのある遊びをすることを好むなど、成長とともに遊びの内容が変わることに注視し、年齢に応じた保育の中で子どもを育てていくという考えを示しており、結果を踏まえた改善方策は適切である。

本委員会では自由記述の、「多くの自然と触れ合うことで感受性が育つ」という部分に着目した。AI生成技術の発達に伴い、好むと好まざるに関わらず、子どもたちは学びを含めた様々な場面でAIと関わることになるであろう。しかし、自然と触れ合うことで感受性が育った子どもたち、五感を使って園での遊びに没頭した子どもたち、想像力を培った子どもたちの心には、自身の感性や経験で判断する力が宿ってお

り、人生の様々な時点で、その力を発揮して生きていくであろう。自然の持つ力、その自然を最大限に生かす本園の教育に本委員会は大きな期待を寄せている。

## 6 「学校評価（自己点検・評価）報告書」に対する園長の意見書

関西大学幼稚園

園長 藤川 友香

本園の今年度の学校評価は、本園の豊かな自然環境に焦点を当て、自然に関する保育について点検・評価を行った。学校評価を行うにあたり、私たち教員が本園の自然環境への理解を深めることや確かめることが必要だと考え、職員会議で自然の変化について発見や気づきを共有した。そのことにより気づいていなかったことがわかり、より理解を深めたり、広げることができた。自然の変化は、気温や天候により年によって時期が変わるので、教員が変化や気づきを共有することで、時期を逃さず子どもたちに働きかけることができた。幼児教育は、保護者（家庭）との連携が大切である。本園では、保護者へ教育内容を伝える手段として、園だよりや学年だより等の便りと、教員が保護者に直接働きかけることができるクラス懇談会があり、保護者に幼児教育への理解を深めていただけるように働きかけている。就労によりクラス懇談会に参加できない保護者が増えている現状を考慮し、これまでクラス懇談会後に行っていた保護者アンケートを全員に配布し、回収する形にした。回収率は下がったものの、これまで通り丁寧に記述回答を記載してくださっていることには感謝の思いである。記述回答からは、便りやクラス懇談会での教員からの話に加え、子どもを通して季節の変化や実がなる木をいただいた様子や味の感想等が保護者に伝わっていることがわかり、子どもから園の様子や大事にしていることが伝わることで、保護者の理解を深めることができた。年少児はまだ自分の経験をイメージできるように伝えることは難しいこともあるが、ご家庭でお子さんの話を聞き、園での様子を想像しながらやり取りすることで、親子のコミュニケーションのひとつときになってしていると推測する。

近年、インターネットを利用し、検索すれば季節の変化、実がなる木の成長・変化等知識を知ることは簡単にできる。けれど、自分が見たこと、感じたこと、味わったこと、触れたこと等五感を通して経験したことは、子どもの心に残り、経験したことを自分の言葉で伝えるからこそ、楽しかった、美味しかった、不思議に思ったことが保護者に伝わるのだと考える。そして、今、感じていること、不思議に思っていることが小学校の授業の中で知ること、今の経験や気づきが繋がることが大事だと考える。

幼児期に自然と触れる経験は、五感を働かせ、身体感覚を育て、非認知能力を育てるために大切である。本園の豊かな自然環境を保育に活かし、子どもの育ちのために、今後も教職員一同で本園の教育の向上と充実に努めたいと強く思う。

## 7 アンケート結果

2025年度学校評価についてのアンケート項目一覧・実施対象者別アンケート結果比較一覧表（関西大学幼稚園）

2025年度 関西大学幼稚園 教員対象 学校評価に関するアンケート（用紙）

2025年度 関西大学幼稚園 保護者対象 学校評価に関するアンケート（用紙）

以 上

2025年度学校評価についてのアンケート項目一覧・実施対象者別アンケート結果比較一覧表(関西大学幼稚園)

保護者アンケート		A	B	C	D	無記入	教員アンケート		A	B	C	D	無記入
本園の豊かな自然環境に魅力を感じますか。	全体	98.4%	1.6%	0.0%	0.0%	0.0%	本園の豊かな自然環境を保育に取り入れることを意識していますか。	全体	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
土や砂、水を使い、木の葉や実、石等自然物を見つけ感覚を働かせて遊ぶことを大事にしています。お子さんは戸外遊びが楽しいと感じていますか。	全体	93.1%	6.9%	0.0%	0.0%	0.0%	幼児期において土や砂、水を使い、木の葉や実、石等の自然物を見つけ遊びに取り入れることで子どもの五感（触覚・視覚など）に働きかけ、想像力や情緒面の発達に重要な関わりがあることを意識して保育に取り入れていますか。	全体	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
園内の散歩では、子どもたちが自然の中から季節の移り変わりに気づけるように働きかけています。お子さんが季節の変化を感じてるように思いますか。	全体	83.1%	15.4%	1.5%	0.0%	0.0%	園内の散歩では、子どもたちが自然の中から季節の移り変わりに気づけるように働きかけていますか。	全体	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
実がなる木の変化や季節の移り変わりが発見できる環境に魅力を感じますか。	全体	97.7%	2.3%	0.0%	0.0%	0.0%	実がなる木の変化や季節の移り変わりが発見できるよう子どもに働きかけていますか。	全体	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
ジューンベリー、ブルーベリー、トマト、ザクロ、みかん、柿、さつまいも、銀杏、園の実りをいただいたことを園の便りやクラス懇談会、ホームページ、お子さん等から伝わっていますか。	全体	93.8%	6.2%	0.0%	0.0%	0.0%	ジューンベリー、ブルーベリー、トマト、ザクロ、みかん、柿、さつまいも、銀杏、園の実りをいただいたことを園の便りやクラス懇談会、ホームページ等を通して保護者に伝えるよう努めましたか。	全体	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
紅葉した葉をプリンやケーキの飾りに使ったり、花束を作ったり、子どもが遊びに自然物を取り入れていることを園の便り、クラス懇談会、ホームページ、お子さん等を通して伝わっていますか。	全体	73.1%	19.2%	7.7%	0.0%	0.0%	子どもが自然物に興味を持ち、遊びに取り入れている様子を園の便り、クラス懇談会、ホームページ等を通して保護者に伝えるよう努めましたか。	全体	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

< 2025 年度学校評価アンケート（教員） >

1. 本園の豊かな自然環境を保育に取り入れることを意識していますか。

- A 意識している
- B まあまあ意識している
- C あまり意識していない
- D 意識していない

C または D と答えた方はその理由をお書きください。

( )

2. 幼児期において土や砂、水を使い、木の葉や実、石等の自然物を見つけ遊びに取り入れることで子どもの五感（触覚・視覚など）に働きかけ、想像力や情緒面の発達に重要な関わりがあることを意識して保育に取り入れていますか。

- A 取り入れている
- B まあまあ取り入れている
- C あまり
- D 取り入っていない

C または D と答えた方はその理由をお書きください。

( )

3. 園内の散歩では、子どもたちが自然の中から季節の移り変わりに気づけるように働きかけていますか。

- A 働きかけている
- B まあまあ働きかけている
- C あまり働きかけていない
- D 働きかけていない

C または D と答えた方はその理由をお書きください。

( )

4. 実がなる木の変化や季節の移り変わりが発見できるよう子どもに働きかけていますか。

- A 働きかけている
- B まあまあ働きかけている
- C あまり働きかけていない
- D 働きかけていない

C または D と答えた方はその理由をお書きください。

( )

5. ジューンベリー、ブルーベリー、トマト、ザクロ、みかん、柿、さつまいも、銀杏、園の実りをいただいたことを園の便りやクラス懇談会、ホームページ等を通して保護者に伝わるよう努めましたか。

- A 努めた
- B まあまあ努めた
- C あまり努めていない
- D 努めていない

C または D と答えた方はその理由をお書きください。

( )

6. 子どもが自然物に興味を持ち、遊びに取り入れている様子を園の便り、クラス懇談会、ホームページ等を通して保護者に伝えるよう努めましたか。

- A 努めた
- B まあまあ努めた
- C あまり努めていない
- D 努めていない

C または D と答えた方はその理由をお書きください。

( )

< 2025 年度学校評価アンケート >

アンケートにご協力をお願いします。

1. 本園の豊かな自然環境に魅力を感じますか。

- A 感じる
- B まあまあ感じる
- C あまり感じない
- D 感じない

C または D と答えた方はその理由をお書きください。

( )

2. 本園の自然環境を「関西大学幼稚園の自然環境について」の表にまとめました。

この表を見て、思ったことがあればどんなことでも結構ですのでお書きください。

3. お子さんのことで今、困っていることや悩んでいることがあればお書きください。

よろしければお名前をお書きください。

---

< 2025 年度学校評価アンケート >

9月にお手紙でお知らせしましたように、今年度は本園の自然環境について学校評価を行なっています。お手数ですが以下のアンケートにご協力をお願いします。当てはまるもの1つに○をつけ、理由、記述欄への記載もよろしくをお願いします。提出締め切りは12月19日(金)です。

1. 土や砂、水を使い、木の葉や実、石等自然物を見つけ感覚を働かせて遊ぶことを大事にしています。お子さんは戸外遊びが楽しいと感じていますか。

- A 感じている
- B まあまあ感じている
- C あまり感じていない
- D 感じていない

A または B と答えた方はその理由をお書きください。

( )

C または D と答えた方はその理由をお書きください。

( )

2. 園内の散歩では、子どもたちが自然の中から季節の移り変わりに気づけるように働きかけています。お子さんが季節の変化を感じているように思いますか。

- A 思う
- B まあまあ思う
- C あまり思わない
- D 思わない

A または B と答えた方はその理由をお書きください。

( )

C または D と答えた方はその理由をお書きください。

( )

3. 実がなる木の変化や季節の移り変わりが発見できる環境に魅力を感じますか。

- A 感じる
- B まあまあ感じる
- C あまり感じない
- D 感じない

A または B と答えた方はその理由をお書きください。

( )

C または D と答えた方はその理由をお書きください。

( )

4. ジューンベリー、ブルーベリー、トマト、ザクロ、みかん、柿、さつまいも、銀杏、園の実りをいただいたことを園の便りやクラス懇談会、ホームページ、お子さん等から伝わっていますか。

- A 伝わっている
- B まあまあ伝わっている
- C あまり伝わっていない
- D 伝わっていない

AまたはBと答えた方はその理由をお書きください。

( )

CまたはDと答えた方はその理由をお書きください。

( )

5. 紅葉した葉をプリンやケーキの飾りに使ったり、花束を作ったり、子どもが遊びに自然物を取り入れていることを園の便り、クラス懇談会、ホームページ、お子さん等を通して伝わっていますか。

- A 伝わっている
- B まあまあ伝わっている
- C あまり伝わっていない
- D 伝わっていない

AまたはBと答えた方はその理由をお書きください。

( )

CまたはDと答えた方はその理由をお書きください。

( )

6. お子さんが自然に興味を持っていると思うこと、感じるものがあれば何でも結構です。お書きください。

よろしければお名前をお書きください。

---